

オンラインセミナー

「ロンドン・ニューアム地区における統合(多文化共生)への取り組み－新宿との比較分析から」 を開催しました

クエアロンドン事務所では2021年3月22日、「ロンドン・ニューアム地区における統合(多文化共生)への取り組み－新宿との比較分析から」をテーマにオンラインセミナーを開催し、自治体職員、国際交流協会、在住外国人支援団体、大学関係者など167名にお申込みをいただきました。

<プログラム>

16:30～16:35	開会挨拶・講師紹介
16:35～17:15	英国アングリアラスキン大学博士課程 大山彩子様 講演
17:15～17:30	質疑応答

講演の概要

ロンドンのニューアム地区は、住民の半数以上が英国外の出身で、白人英国人の割合がわずか17%という、英国内の自治体の中でも英国生まれでない住民の数が最も高い地域です。英国では1960年代からエスニックマイノリティに対する差別への取り組みが国レベルで行われており、近年では2018年に統合されたコミュニティを目指す政策提案書が作成されています。

ニューアムでは、「統合」や「移民」という言葉を用いた政策は行われておらず、多くは「平等」や「連帯」という言葉で表現されています。翻訳サービスの縮小や図書館から英語以外の新聞を撤去したこと、単一の民族、宗教グループを対象としたイベントへの助成を停止したことや、英語を話せるようになることを重視した政策は、過激な統合政策だとしてメディアに批判されたこともありました。しかし、実際に地域で活躍しているローカルアクターへ話を聞くと、「みんなが地域コミュニティの一員となること」を目指して、「個人」としての全住民が平等であることを重視していること、異なる民族、宗教コミュニティ間の交流を促進すること、貧困の連鎖を止め、地域コミュニティに関わるために英語を話せるようになることを重視していて、それは正しい選択であり、先進的な取り組みだという評価をしている人が多かったそうです。図書館がコミュニティセンターを兼ねており、ちょっとした相談事があるときに最初に行く場所であることや、異なる宗教グループのメンバーが集まり、それぞれの宗教的観点から同じテーマについて話をしたり、お互いの宗教的イベントに招待しあったり、毎年区長主催の大規模イベントを開くなどといった取り組みについても紹介されました。

新宿との比較研究からは、それぞれの地域に合った統合。多文化共生の形があり、住民同士が地域について話し合い、問題意識を共有して地域のコンセンサスを築くと共に、意見の相違を認識することも重要であることが示唆されています。

質疑応答

Q. 英国での多言語対応の現状は？

A. 新規の移民が多い地域では多言語対応を行っているところがあったり、新型コロナウイルスに関して「コミュニティランゲージ」として多言語での情報提供が行われている事例もあります。

Q. 情報の多言語化について、日本に置き換えるとどうか

A. まだ日本では移民はマイノリティであるため、支援されるべきで、さらに現在はまだ多言語化も十分でないため、これからも多言語化へ取り組む必要があると考えられます。やさしい日本語の展開や多言語の促進は大切なことであると考えます。

Q. ニューアムにはなぜ移民が多いのか？

A. ニューアムは歴史的にテムズ川沿いで、大航海時代に世界一の港と言われたドックが近かったため、世界から多くの人が入り出している場所でした。移民に関する問題やそれに対応する動きはニューアムで一番最初に起こると言われており、多言語サービスの導入やその次の段階としての多言語化の縮小も、他の地域に先立って行われていると言えます。

Q. 地域住民同士の交流を可能にしていること、また障壁となっていることは？

A. 数多くの交流の場があることが好影響を与えている一方で、貧困と言葉の壁や、短期滞在者が多く、経済的状況が改善すると地域外へ出て行ってしまいう人が多いということが交流の障壁となっていると考えられています。

Q. コミュニティセンターが図書館の中に設置された経緯は？

A. 財源不足から2つの施設を1つにまとめたという経緯で同じ建物の中に設置されましたが、それが結果的に図書館に行きやすい環境を作ることにつながりました。コミュニティセンターでは子供の誕生日会、合唱クラブ、チェスクラブなどが行われています。

Q. コミュニティセンターでのボランティアの話がありましたが、英国でのボランティア活動の状況は？

A. 英国では、ボランティア活動が盛んで、ボランティアの機会は子供から大人まで多くの機会が与えられており、進学や就職でも有利に働くことがあるほか、自己紹介をする時に「ボランティアをしている」ということで相手が安心感を持ってくれるというような状況もありました。

Q. ニューアムの取り組みについてのメディアの批判とローカルアクターの評価の違いについてのご意見を

A. ニューアムの取り組みについては、マスコミで批判されていたもの、それは一度のみで、第三セクターやシンクタンクからは批判がありませんでした。それは住民からの反発が起きていないということがわかったためだと思われま